

第七十七回 宗像歌会

令和四年九月十七日(土)

自由詠

春の光も 秋風も
知らないままの

夏の蝉

鳴いて鳴いて

十日の命

かよへえ



微かな虫の音

リリリ~~~~~リリリ~~~~~

夜の静寂に

余韻を残し

夏を仕舞う

杉本 明美



題詠『気』

気の合う友がいて、楽しくお喋り
暮らし向きは 中の下位、
程々に、元気に生きている
これ以上
何を望もう！

大槻 幸子



「気」

揉んだり 掛けたり

回したり ……

見えないからこそ

厄介だけど面白い

杉下 啓恵

空気の重さ

水の重さ

毎日のプールに

自分の体調と

(気)を感じる

高原 美智子



風間の暑さで
みえなかった
秋の気配
木漏れ日が
やさしい

田上 好江